

対外試合出場の手引き

*** 初めて対外試合に出場する方へ ***

試合にはローカルな大会と全ア連(全日本アーチェリー連盟)の公認する大会があります。
初めて大会に出てみようかなと思う方は、競技部や大会に出場している先輩に相談してください。

● ローカル大会

各区協会やクラブチームが主催して他の団体にも呼び掛けて開催する大会。(50・30mまたは30mWが多い)
新ア協(新宿区アーチェリー協会)は他団体には呼びかけていないが、新ア協が開催する大会のイメージ。

● 公認試合

都ア協(東京都アーチェリー協会)主催の公認試合への参加には都ア協の会員登録が必要。
ただし、「70mラウンド・50mラウンド大会」に出場する場合には全ア連の会員登録も必要になる。
また、試合結果(得点)を公認記録とする場合(*スターバッチ申請も)、全ア連登録が必須。

*グリーンバッチ申請の場合、公認競技である必要はない。(公認審判員立ち会いの記録会等でもOK)

■ 試合参加の申し込み

- ・射場に掲示してある「競技予定表(都ア協)」等の申し込み欄に氏名を記入する。
または協会 web サイト [アーチェリー協会員通信] [都ア協主催大会の協会員専用] の [申し込みフォーム] から氏名等を送信。
- ・大会要項に「個人申し込み」とある場合は、要項を良く読んで個人で申し込む。
振り込みの必要がある時は振り込みもお忘れなく !

■ 参加可否の確認

- ・申し込み先よりメール等により連絡があるので参加の可否を確認する。
立ち順表が添付されている場合は、自分の参加する部門と立ち順を確認、間違い等のあった場合は申し込み先に連絡する。
- ・参加できない事情が発生した場合は、必ずキャンセルの連絡をすること。
※ 申し込み期限を過ぎたキャンセルは、参加費の支払いが必要。

■ 参加準備

- ・弓具等に故障は無いか確認する。消耗品(弦・タブ・レスト等)はスペアを用意しておく。
- ・当日の天候を確認して暑さ対策や雨の対策をしておく。

■ 試合出場時の服装

- ・アーチェリー競技にふさわしいスポーツウェア
⇒ 下は、スポーツスラック・スチノパン等、上は、新ア協のユニフォーム(団体戦では必須)が望ましい。
デニム・ジーンズ・カーゴパンツ・迷彩柄は禁止、ド派手なカジュアルTシャツもアウト !!
『トレードマークを付けた衣類の着用は許されるが大きさは、メーカー商標・定型6cm²以内、非定型20cm²以内とし、その他は当該年度のWAと同じくオリンピック委員会基準を準用する。』⇐ 全ア連競技規則 第18章 服装規定より
- ・TV中継や動画配信がある場合、アンダーシャツ(コンプレッションシャツ)はユニフォームと同系色又は白。
- ・靴は、スポーツシューズを着用すること。ビジネスシューズ・サンダル等足全体を覆っていないものは不可。
- ・『天候状況により、競技委員長または審判長が許可した場合には、セーター、トラックスーツ、レインギア等の防水具・防寒具を着用できる。』⇐ 全ア連競技規則 第18章 服装規定より ※ 第29章も参照の事
※ 安物のカップは、蒸れたり汗のしずくで冷えたりするので、ケチケチしないで良いものを選びましょう !
※ 夏場は熱中症に留意し、スポーツドリンク等を持参し、帽子を着用すること !!
(7~9月の公式戦では用具検査時にチェックがあり、持っていない場合は競技に参加できない。)

◆ 当日受付

- ・出場のチェックをしてもらい、参加費を支払う。(公式戦では全ア連または都ア協の会員証提示を求められる)
- ・当日参加できなくなった場合は、大会主催者か他の参加メンバーに必ず連絡を取ること。
※ 当日不参加の場合、欠場者の参加費は他の参加メンバーが立て替えて支払う。

◆ 開会式

- ・競技方法の説明等があるので、開会式には必ず参加すること。
- ・弓具の組み立て等の準備は開会式の前に終わらせておく。(的の設営作業がある時は進んで手伝う)
- ・公式戦では試合前に用具検査があり、「用具の通則」(全ア連競技規則 第10章)に反していないかをチェックします。 ※ 矢には名前(イニシャル可)が入っていることが必要で、CPはリリースの予備が必須です。

◆ 練習(プラクティス)と行射 ***キャデット・マスターについては全ア連 HP 及び 競技規則第3章を参照!**

- ・通常のアウトドアの大会(公式戦)は、練習・行射とも6射180秒。(50m・30mの場合3射矢取りの場合あり)
※ リカーブは、70m36射×2回で計72射、122cm的を使用。(50m・30mでは80cm的)
*17歳以下(キャデット)、*50歳以上(マスター)という種別もあり、60mで122cmを使用します。
- ※ コンパウンドは、50m36射×2計72射、6リング(48cm的)使用。(50・30も6リング(5リングの場合あり))
- ※ ベアボウの場合は、50mで122cm的を使用して、36射×2回で計72射。
- ※ この他、FITA900=122cm的で60・50・40m各30射(満点で900点)、1440ラウンド=90(女子70)・70(60)・50・30m各36射(満点で1440点)という大会もあり。(90・70mは122cm的50・30mで80cm的使用)
- ・インドア(18m)大会は、練習・行射とも90秒3射。(練習は2回行う(CPと*RC50才未満は縦三つ目的))
- ・立ちは、試合によって、A立ちのみ、AB立ち、ABC立ち、ABCD立ち、ABCDE F立ちと様々。(立ち順により自分の射つ的が都度変わることがあるので要注意)
- ・3mラインを超えた矢は発射したものと見なされる。(少しでも3mラインに掛っている場合は再発射して良い)
- ・発射して地面に刺さった矢は、スコアカードにMと記入し、点付けが終わった後で回収する。
- ・的を外した時や発射した矢が見つからない時は、間を置かず審判員にロストアローの申告をする。
- ・ロストアローを発見したら審判員に発見の報告をする。
- ・自分の立ちでない時は、ウエイティングライン(WL)後方に下がって待機する。(弓具もWLを超えない)

◆ スコープの使用 ***RCで50才以上(各大会の要綱に従う事)とBBは40cm的を使用**

- ・スコープを使用する場合、自分の脇の下の高さを越えないようにする。
- ・スコープは、行射終了の都度WL後方に下げる。(同的の他の選手の同意が得られた場合は残置する事ができる)
- ・6射目(インドアでは3射目)を射ち終えたらスコープを覗かず速やかに後方に下がる。
- この時、前後の選手が射ち起している、またはアンカーに入っている時はその選手が射ち終えるまで動かない。

◆ 用具故障などによる補充矢の行射時間

- ・用具故障が発生した場合、競技者はシューティングラインから下がり、審判を呼ぶ。審判が確認すれば修理に必要な時間が与えられ、アウトドアでは6射2エンド、インドアでは3射3エンドまでの行射時間が与えられる。

◆ スコアカードの記入(点付け・矢取り)・提出

- ・スコアカードの素点は、同的の他の選手(スコアラール)が記入する。(自分自身で記入することは出来ない)
- ・的の自分の矢の得点を読み上げ、スコアラールが記入した得点に間違いがないか確認する。
- ・相手選手の得点を記入する時は、的の矢を確認し、相手選手に見える様に記入して得点を確認してもらう。
- ・スコアの記入が終わったら、的中孔チェックをしてから矢を抜く。(点付けが終わるまで矢にも的にも触れない)
- ・記入ミスがあった時は、的前で矢を抜く前に訂正し、同時に矢取りする同的の選手全員のサインをもらう。
- ・電子集計システム i@nseo(イアンセオ)を併用する場合、手書きのスコアカードの素点が優先される。
- ・体調不良等で競技続行を断念する場合、それまでの点数合計を合計点欄に記入し、スコアラールサイン・選手サインを記入して審判員に提出する。(体調不良の時は無理せず迷わずリタイヤする)
- ・競技が終了したら、スコアラールにサインを求め、得点合計に間違いがないか、記入欄に記入漏れがないか確認してから責任を持ってフルネームで署名し、審判員に提出する。(合計点の計算間違いは無効となる)

◆ 表彰(閉会)式

- ・終わるまで帰らない。上位入賞者には称賛の拍手を! (的の撤去作業がある時は進んで手伝う)

「全日本アーチェリー連盟競技規則」は射場にあります。ご活用ください。(射場外持出しは禁止)

※ ネットでも「全日本アーチェリー連盟競技規則」で検索すればヒットします。

不明な点がある場合や詳細については、競技部(審判部)にお尋ね下さい。

《柳川記》